

人工知能×アダプティブ・ラーニング！クラウド型学習システム「すらら」 すららネットとチエルが学校向けデジタル教材の共同開発に合意 ～小中学校向け e-Learning ドリル教材を2017年4月より提供開始予定～

株式会社すららネット（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：湯野川孝彦、以下すららネット）は、チエル株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：川居 睦、以下チエル）と、学校向けデジタル教材の分野において協業し、チエルへの技術提供を行い、小中学校向けの e-Learning ドリル教材を共同開発します。

■業務提携の背景と目的

文部科学省が本年7月に公表した「2020年代に向けた教育の情報化に関する懇談会」最終まとめでは、ICT を活用して授業と家庭学習等の連携を進めるため、学校や家庭で利用される教育システムの「学習記録データ」を有効につなげることで、子供たちの学びの「可視化」をすることの必要性が示されています。これにより、教員の指導力向上や授業改善、個に応じた学習の充実、学校・家庭のシームレスな学びの実践が期待されています。

すららネットでは、学校・学習塾向けのクラウド型学習システム「すらら」において、子供たちの解答結果から一人ひとりの習熟度に応じて最適化した問題や解説を自動で提示する「適応学習（アダプティブ・ラーニング）」の研究開発を行ってまいりました。2014年には、「すらら」の学習データをもとに、世界銀行、東京大学と最適な学習行動についての共同研究を行い、「行動経済学会」で発表され、2016年には、慶應義塾大学と一橋大学との共同研究内容が「経済産業研究所」などでも発表されています。

一方チエルでは、高校・大学向けのクラウド型教材配信サービス『CHJeru.net』で培ったノウハウを活かし、小中学校向けのデジタル教材クラウドサービスの開発において、学習記録データを基にした「学習分析（ラーニング・アナリティクス）」についての研究開発を進めてきました。

すららネットは、これまで全国の塾及び私立学校を中心にクラウド型学習教材「すらら」の提供を行って参りましたが、今回の業務提携を端緒として、公教育分野に強みを持つチエルと e-Learning ドリル教材を共同で展開することで、公教育の ICT 化の支援をして参ります。

■株式会社すららネットについて

すららネットは、人工知能とアダプティブ・ラーニングを活用したクラウド型学習教材「すらら」の開発・提供と、学校・塾向けのコンサルティングを行っています。2012年には「日本 e-Learning 大賞 文部科学大臣賞」を、2016年には「日本ベンチャー大賞 社会課題解決賞」を受賞しました。国内では100以上の学校と600以上の塾で導入され、現在ではスリランカやインドネシアなど、海外での活用が進みつつあります。

■チエル株式会社について

「子供たちの未来のために、世界中の先生の授業を ICT で支える」を企業理念に掲げて設立。シェア NO.1 のフルデジタル CALL システムや、タブレット対応授業支援システム、クラウド型教材配信サービス『CHJeru.net』などの開発・制作を手がける、学校教育市場に特化した ICT 専門メーカー。『CHJeru.net』は、高等教育市場におけるグローバル人材育成のニーズの高まりを受け、英検対策教材『旺文社・英検 CAT』や、韓国語初学者向け教材『韓国語入門』など、資格試験対策から多言語教材まで幅広い教材ラインナップを揃え、利用者が堅調に推移し、2016年9月末時点で累計会員数が297万人を突破しています。

■クラウド型学習システム「すらら」とは

【学習範囲】 小学校高学年～高校 3 年生までの学習指導要領に準拠

【対応教科】 英語・数学（算数）・国語

【利用者数】 約 34,000 名（2016 年 6 月末現在）

【特徴】

○Point 1 スモールステップでわかりやすいインタラクティブ授業

1 つの単元は 10 から 15 分程度で、小さな階段を少しずつ上るような構成。

しかも授業は一方的ではなく、随所で先生役のキャラクターが問いかけを行い、問題に答えていくというインタラクティブスタイル。そのため、飽きることなく、適度な緊張感を持続し、楽しみながら学習を進めていくことが可能。

○Point 2 難易度調整や弱点診断ができる演習ドリル

一人ひとりの理解度に応じて出題される問題の難易度を調整する「出題難易度コントロールシステム」を搭載。「簡単すぎず難しすぎない」問題が出題されることで、達成感を感じ自信を深めながら、学習を進めることが可能に。また、何がわからないから問題が解けないのか理由を探る「弱点自動判別システム」も搭載。

○Point 3 現役の塾の先生による手厚いフォロー

いつまでにどこまでの学習をするかといった「月 1 回の目標設定」や、つまづいているところがないか「週 1 回程度の電話やメールでの進捗確認」など、継続して取り組めるよう現役塾講師がフォロー。また、クラウド型学習だからこそ、学習内容や正答率・解く速さなども詳細に把握できるので、お子様一人ひとりに応じたきめ細やかな学習指導が可能。

<参考>これまでの e ラーニング教材の大半は以下の 3 パターン

1. 動画配信型：カリスマ講師のレクチャービデオを視聴するタイプ
「理解」にはすぐれているが「反復」の部分がないためやりっぱなしになってしまい、実力が身につかない傾向がある。また、一方的な説明となるため、比較的意識の高いお子様でない、集中力が続かない。
2. 問題集型：問題集の結果をパソコンに打ち出して結果分析をするタイプ
「定着」にすぐれているが「理解」の部分がないため、学力の高い生徒でない、一人で学習を進めることが困難な傾向がある。
3. ゲーム型：携帯用ゲーム機などを使って学習するタイプ
非常に楽しく学習できるが、単語など反復による暗記系が中心で、体系的な学習には不向き。

「すらら」はこうしたそれぞれの短所を補い、長所を相乗効果的に組合せた、理想の"次世代型教育システム"です。



■「すらら」の“アダプティブ・ラーニング”機能

生徒の解答結果から独自のアルゴリズムにより苦手部分を分析・特定し、生徒それぞれに最適化した学習すべき解説や問題を自動で提示する機能。学習者が苦手分野を自分で克服できるようにする。

■「すらら」における“人工知能”

AI が生徒の学習データに基づき先生の替わりに生徒と対話を行う機能「AI サポーター」を搭載し、生徒のモチベーションに与える効果について慶応義塾大学 中室牧子研究室と共同研究を実施中。

■ 株式会社すらら ネット 会社概要

- 設立：2008 年 8 月 ○ 資本金：13,795 万円 ○ 所在地：東京都千代田区内神田
- 事業内容：クラウド型学習システムによる教育サービスの提供および運用コンサルティング、マーケティングプロモーション及びホームページの運営
- 会社 URL： <http://surala.jp/>
- 受賞歴：
 - ・ 第 9 回日本 e-Learning 大賞 文部科学大臣賞(2012 年)
 - ・ Japan Venture Awards 2014 中小機構理事長賞(2014 年)
 - ・ 第 2 回「日本ベンチャー大賞」社会課題解決賞（審査委員会特別賞）（2016 年）
 - ・ 第 8 回「千代田ビジネス大賞」大賞(2016 年)